

幻の壺(本多静雄旧蔵)
短頸壺 渥美窯(銘 従五位下惟朝臣遠清)/愛知県陶磁美術館所蔵

黒い壺(本多静雄旧蔵)
葛沢の蓮弁文壺 豊田市指定文化財/豊田市所蔵

民芸の森オープン10周年 特別企画

幻の壺と黒い壺

一本多静雄のやきものの奇遇談

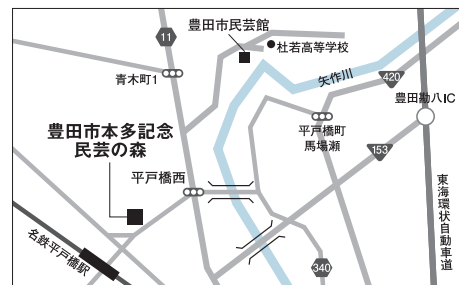
2026年4月25日[土]—8月30日[日]

開館時間:午前9時30分~午後5時
休館日:月曜日(ただし5月4日、7月20日は開館)
会場:豊田市本多記念民芸の森 田舎家(青住居)
観覧料:無料

豊田市名誉市民で実業家、日本有数の古陶磁研究者として知られる故・本多静雄(1898—1999)。その所以となっているのが、猿投古窯と渥美古窯の発見です。本多の強い好奇心から発見された渥美古窯の存在は、古陶磁研究において学術的にも高く評価され、歴史的にも非常に貴重なものです。本展では、本多静雄の古陶磁研究の原点であり、自身のエッセーで「幻の壺」と「黒い壺」と名づけた2点の作品を通して、本多のやきものに向けられた深い眼差しを紹介します。

豊田市本多記念 民芸の森

〒470-0331 愛知県豊田市平戸橋町石平60-1 TEL:0565-46-0001
<https://www.mingeikan.toyota.aichi.jp/mingeinomori/>



〈電車〉名鉄三河線平戸橋駅より徒歩約5分
〈お車〉(名古屋方面から)猿投グリーンロード・枝下ICから約10分
(多治見・岡崎方面から)東海環状自動車道・豊田勘八ICから約10分



関連事業
■講演会「本多静雄の古陶磁研究—渥美古窯発見の意義」 ●愛知県陶磁美術館 学芸員 大西 遼 ●日時:6月27日(土)14:00~平戸橋いこいの広場 多目的室
■担当学芸員によるギャラリートーク ●日時:5月9日(土)、6月6日(土)、7月4日(土)、8月8日(土)いずれも14:00~

■ 豊田市民芸の森とは

豊田市名誉市民・本多静雄の邸宅のあった場所です。

本多静雄は、内閣技術院を退官後に郷里の豊田市に戻り、昭和21年(1946)平戸橋町に居を構えました。

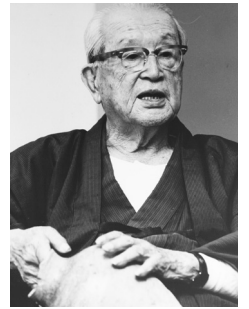
本多はこの場所を拠点に実業家として活躍する一方、精力的に古陶磁の研究や民芸品の収集に取り組みました。

この場所は、平成5年に民芸普及のため豊田市に寄贈され、その後、敷地・建物を整備して平成28年4月に「民芸の森」としてオープンしました。現在、駐車場を含めた民芸の森の敷地は1万4千㎡。この広大な敷地の中には様々な建物とモニュメントが点在しています。



■ 豊田市名誉市民 本多静雄

本多静雄は、1898年豊田市生まれ。電気通信事業と科学技術の向上に献身するとともに、古陶磁器の研究に取り組み、猿投窯を発見。民藝運動の創始者柳宗悦との出会いをきっかけに民藝運動に参加。名古屋民藝協会会長や日本民藝協会役員を務め、豊田市民芸館の設立に貢献、多くの民芸品を収集し、豊田市民芸館に寄贈する。貴重な資料や出土品の収集、研究をはじめ、郷土文化の発展に貢献した功績により、1977年に豊田市名誉市民となる。1987年杉本美術館の初代館長に就任。1999年102歳で永眠。



豊田市本多記念 民芸の森